

## 地域ボランティア プログラム

# 「竹炭づくり」

2016.10/16

10月16日（日）、本学の南大沢キャンパス松木日向緑地にて、地域ボランティアプログラム「竹炭づくり」を実施しました。この日の活動は竹炭の作製と竹の伐採、四つ割、大学祭で販売する竹笛用に竹を短く切る作業を行いました。10名の学生が、朝早くから活動に参加しました。



### 火入れの様子

炭は、木材を火で直接燃やすのではなく、火の熱を木材に長時間当て続けることで作られる。窯の中の温度は、少なくとも750℃以上にする必要があるのである。



### ～活動内容～

活動は、太陽が昇ってすぐの午前7時からスタート。窯に火をつける「火入れ」の作業から始めました。今回炭づくりに使用するの、主に昨年伐採した竹でした。炭焼き窯は3つあり、それぞれに人手を分けて取り組みました。

火つけを行ってすぐは、温度計を何度も確認。最初は火の調子が安定しないため、適度に薪をくべながら温度をゆっくりとあげていきます。煙突からは真っ白な煙が噴き出しますが、温度が上がるにつれて色が青色に。その位になると薪をくべるのは止め、窯を閉めます。

この青色の煙が透明に変われば完成。炭が完成するまでには、少なくとも半日かかります。2日ほどかかる場合もあるとのこと。今回は半日間で取り組んでみました。

炭が出来るまでの間、大学祭で販売す

る「竹笛」の材料となる竹の用意や、竹の伐採を行いました。窯の上に芋を乗せて焼き芋をしたり、温かい飲み物を飲みながら、遊学会の皆さんと交流を深めつつ、気長に完成を待ちました。

### ～参加した学生の声～

参加者からは、以下のような感想が聞かれました。

- ・遊学会の方が、今は時間短縮の世の中だが、時間をかける良さや自然の力についてお話しして下さったことがとても印象的だった。
- ・竹を割る作業は楽しいが、とても重労働であることを改めて感じた。さらに多くの方に参加してもらおう事が大切だと感じた。
- ・便利な時代に生まれ育ってしまった人ほど、今回のような時間のかかる作業を経験するのは、災害時などの糧に나と思う。
- ・今回の活動は里山の資源の利用について考えるきっかけとなった。日本全域の里山を長期的に管理・維持していくためには、関心のある人が余暇活動で消費するだけでは足りない。生活に関わるものとは別方向で里山管理の需要を高めていくことが必要かと考えた。